

愛知県 御中

愛知県 令和6年度 DXチャレンジ促進事業 実施委託業務  
事業実施報告書

令和7年3月14日

日本アイ・ビー・エム株式会社  
IBMコンサルティング事業本部



# 目次

- 1. 本業務の目的・基本方針等 ……2ページ
  - ① 本事業の目的
  - ② 基本方針・コンセプト
  - ③ 実施体制
- 2. 実施結果 ……8ページ
  - ① ワーキンググループの活動テーマの提示
  - ② 参加企業の募集
  - ③ ワーキンググループ活動
  - ④ 成果報告セミナーの開催
- 3. 総括 ……43ページ
  - ① 今年度の成果

# 1.本業務の目的・基本方針等

- ① ワーキンググループの活動テーマの提示
- ② 参加企業の募集
- ③ ワーキンググループ活動
- ④ 成果報告セミナーの開催

## 1 -①.本事業の目的

本事業の目的は、仕様書に記載されている目的から一步踏み込んで、【革新事例の創出を通じて、各企業にメリットを出す = 経営向上を実現していただく】ことを目的とする。

### 仕様書記載の目的

「デジタル化を進めているものの DX に向けた取組に着手できていない県内企業の DX を促進するために、企業等が参加するワーキンググループによる検証や実証活動を計画・支援し、先進的なデジタル技術を活用した事業・業務プロセスの革新事例の創出を目指す。」



### 本事業の目的

弊社では、もう一步踏み込んで、【**革新事例の創出を通じて、各企業にメリットを出す = 経営向上を実現していただく**】ことを目的として、事業を実施する。

## 1 -②.基本方針・コンセプト

目的を達成するためのコンセプトとして、【企業の経営向上を実現するために必要な要素を、多角的な視点からそろえた支援の実施】を設定した。

### 本事業の目的

弊社では、もう一步踏み込んで、【革新事例の創出を通じて、各企業にメリットを出す＝経営向上を実現していただく】ことを目的として、事業を実施する。



### コンセプト

企業の経営向上を実現するために必要な要素を、多角的な視点からそろえた支援の実施

## 1-②.基本方針・コンセプト

目的を達成するためのコンセプトとして、【企業の経営向上を実現するために必要な要素を、多角的な視点からそろえた支援の実施】を設定した。

### コンセプト

企業の経営向上を実現するために必要な要素を、多角的な視点からそろえた支援の実施

企業の経営向上を実現するためのDXの取組を実現するためには、少なくとも「事業面」と「技術面」の双方の支援を過不足なく実施する必要がある。また、事業面でも少なくとも、「新規事業創出支援」「事業性評価」また先進的なデジタル技術の活用のために必須な要素である「知的財産に関する支援」が求められる。

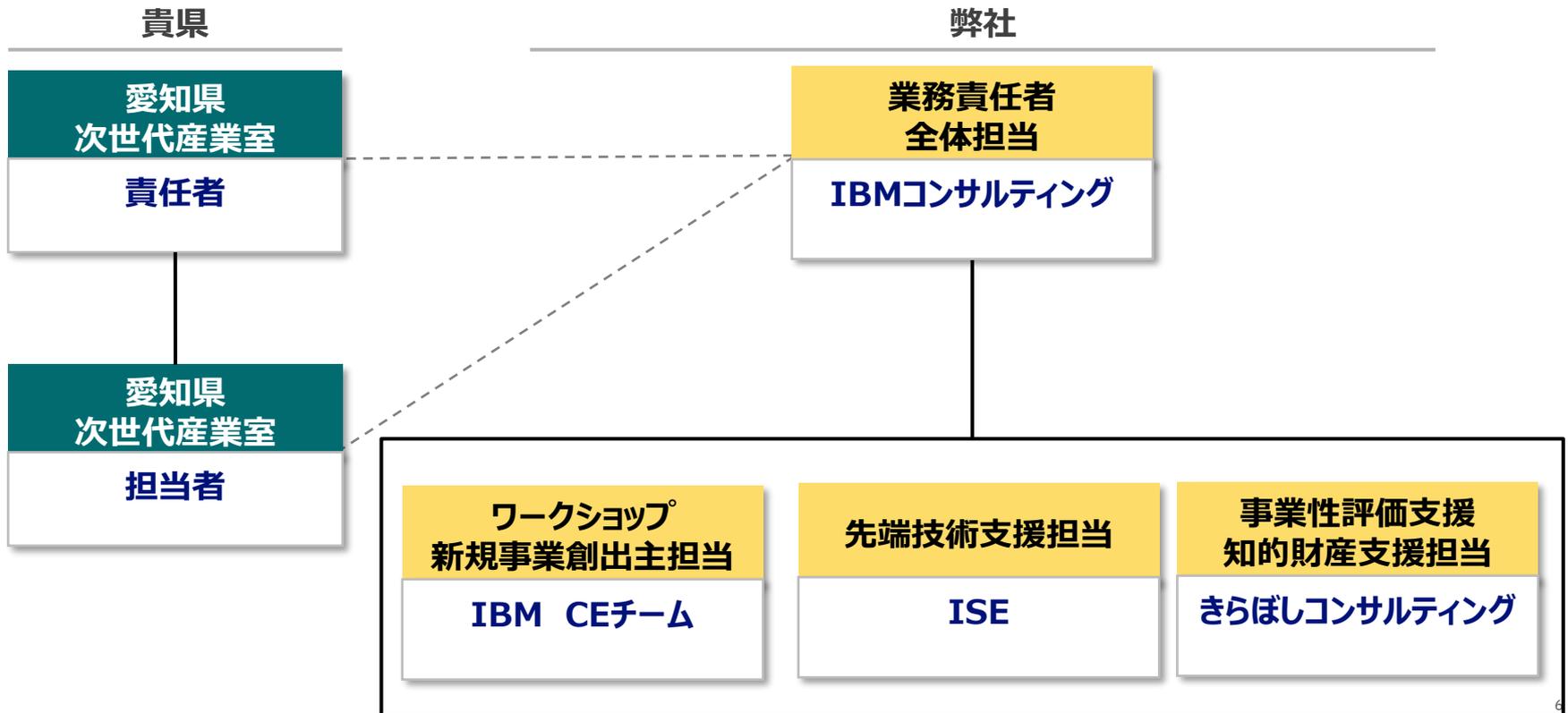
そのため、弊社では目的を達成するための支援を実施するために、次の通り様々な専門家をチームに含んだ支援を実施する。

	専門家種別	役割
事業面	新規事業創出	新たな取組を生み出すためのリード
	事業性評価	取組自体が経営向上につながる可能性の有無・多寡の評価
	知的財産	取組が知的財産保護が必要であるかどうか、必要な場合の対策について助言
技術面	先端技術	先端技術の本質を理解したうえで支援企業に伴走して、革新事例の創出に向けて技術面からサポート

# 1-③.実施体制

「企業等が参加するワーキンググループによる検証や実証活動を計画・支援し、先進的なデジタル技術を活用した事業・業務プロセスの革新事例の創出」を目指す事業であるが、革新事例の創出を通じて、各企業に経営向上を実現していただくよう支援を実施する。

そのためには、前述の通り、新規事業開発、デジタル技術の専門家以外にも様々な角度からの支援が必要となるため、次のように必要な種類の知見を持つ専門家をアサインする。



## 1-③.実施体制

アサインする専門家の役割分担は次の通り。4種の専門家をアサインする。



	専門家種別	役割
事業面	新規事業創出	新たな取組を生み出すためのリード
	事業性評価	取組自体が経営向上につながる可能性の有無・多寡の評価
	知的財産	取組が知的財産保護が必要であるかどうか、必要な場合の対策について助言
技術面	先端技術	先端技術の本質を理解したうえで支援企業に伴走して、革新事例の創出に向けて技術面からサポート

## 2.実施結果

- ① ワーキンググループの活動テーマの提示
- ② 参加企業の募集とワーキンググループ活動
- ③ 成果報告セミナーの開催

## 2-①.ワーキンググループの活動テーマの提示

仕様書の記載事項に基づき、以下の通り、技術分野を選定した

### 仕様書 記載内容

- テーマの提示については、今後のDX促進につながる可能性の高いテーマを提示することが望ましい。
- 設定する活動テーマに、以下の内容が含まれること（各テーマにいずれか1つ以上）が望ましい。
  - AI 技術
  - データ利活用

DX促進につながる可能性の高い分野を選定

### 弊社選定 技術分野

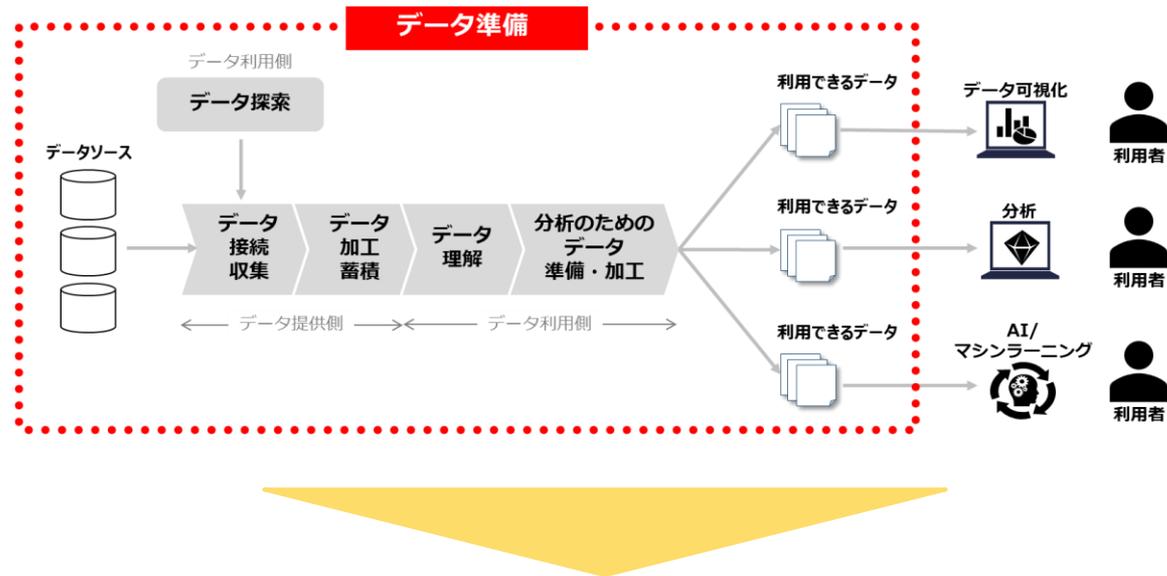
■ AI 技術：機械学習、画像認識、言語処理、音声認識、データ分析・予測、作業制御・自動化、等が含まれるが、これらの中から支援企業に合わせて適切な技術を選定する。

■ データ利活用：データ利活用全体を対象とするが、出口は前述のAIやBI、分析など各企業の状況に応じ、様々な出口を対象とする。

## 2-①.ワーキンググループの活動テーマの提示

テーマについては、どちらか片方のみではなく、両方を用いることも可能、という整理で活動テーマを設定した。

### 【データ活用イメージ】



便宜上、前述の2つをテーマとするが、この2つはDXを行う上で、必ず背反する技術ではなく、双方が連動するようなDXも想定されるため、この2つのどちらかもしくは両方を用いればよい、という設定

## 2-①.ワーキンググループの活動テーマの提示

前頁までのテーマを踏まえ、ワーキンググループ1、2のテーマを次の通り設定した。

成果を最大限に出すために、より具体的なユースケースを想起させることが必要であるため、技術テーマだけでなく以下の通りターゲット及び目的を設定した。

### WG1

#### AI・データ利活用 × 業務プロセス（製造業向け）

(例)・生産工程を改善して、生産性を上げたい

・生産工程の見直しをしたいが、どのようなツールがあるのかわからない

### WG2

#### AI・データ利活用 × 新規事業創出

(例)・何か新規事業を作りたいけど、アイデアが出ない・・・

・自社の事業にデジタルを組み合わせると何かできそうだけど・・・

## 2-②.参加企業の募集

参加企業の募集については、以下の流れで実施した。

日にち	実施事項	備考
2024年7月17日	愛知県HPにて公募開始	
2024年8月7日	事業説明会実施 現地：JPタワー名古屋 3階 カンファレンス ルームA1 (名古屋市中村区名駅1丁目1) オンライン：Microsoft Teams	【次第】 ● 本事業に関する説明 ● セミナー「データ活用、先端AIとは何か？」 データ活用やAIの基礎的な内容を解説、 実際のデモを実施し、理解を深める ● 事業に関する個別相談会
2024年8月28日	公募〆切	
※公募期間中随時	愛知県、弊社により行政や支援機関に周知を実施	

## 2-②.参加企業の募集

公募時に使用したチラシは以下の通り。

愛知県 DXチャレンジ促進事業

# AIを活用した DXに挑戦する 企業を募集します

自社の事業にデジタル技術を組み合わせ、  
新たな可能性を広げたい。

新規事業を創出したいが、アイデアが出ない。  
生産工程を改善して、生産性を上げたい。

参加無料

募集期間  
2024年 8月1日(木) ~ 8月28日(水)

事業内容

DXに関する2テーマについて、日本アイ・ピー・エム株式会社（県事業委託先）を主としたさまざまな専門家<sup>®</sup>の支援と月1回程度のワーキンググループを実施します。  
 （※専門家：デジタル技術、知的財産、事業性評価の各専門家）  
 また、進捗状況に応じて参加者企業各社に対し、無料でAIやデータ活用の実証を支援します。本事業を通じて、参加企業各社のDXに向けた取組を支援します。

【テーマ】

WG1：AI・データ活用 × 業務プロセス（製造業向け）  
 WG2：AI・データ活用 × 新規事業創出

事業期間 2024年8月末～2025年2月中旬（予定）

対象者 ワーキンググループへの参画を希望する企業（規模問わず、WG1は製造業のみ対象）



愛知県 DXチャレンジ促進事業 説明会

説明会概要

本事業の説明会を次の通り開催します。  
 同時開催でデータ活用やAIの活用方法に関するセミナーも実施します。  
 本事業への参画を検討している方、DXに興味がある方はぜひご参加ください！

日時	2024年8月7日(水) 14:00 - 16:30
会場	現 地：JPタワー名古屋 3階 カンファレンスルームA1 オンライン：Microsoft Teams
講師	日本アイ・ピー・エム株式会社
次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業に関する説明</li> <li>・セミナー「データ活用、先端AIとは何か？」 データ活用やAIの基礎的な内容を解説、 実際のデモを実施し、理解を深める</li> <li>・事業に関する個別相談会</li> </ul>

申込方法

次の宛先に必要事項を記載の上、メールでお申込みください。

**宛先：** aichi-dx2024@ibm.com

**必要事項：** 社名、役職・氏名、参加人数、メールアドレス、電話番号、  
興味のあるWG（任意）、事業に関する個別相談の参加希望（任意）

**申込期限：** 8月2日（金）18:00まで

詳細は、愛知県公式Webサイトをご覧ください。  
<https://www.pref.aichi.jp/press-release/aichi-pref-iot/dx-challenge-sankasya2024.html>

問い合わせ先

日本アイ・ピー・エム株式会社（県事業委託先）担当：佐藤、小川  
 Mail： aichi-dx2024@ibm.com

## 2-②.参加企業の募集

公募時に使用した愛知県のHPは以下の通り（一部抜粋）。

The screenshot shows the homepage for the "2024年度 DXチャレンジ促進事業" (2024 Annual DX Challenge Promotion Project). The main heading is "IoT Acceleration Aichi pref Lab". The page is divided into several sections:

- 愛知県デジタル技術活用相談窓口**: A link to the digital technology utilization consultation window.
- セミナー・講演会情報**: A list of seminars and lectures, including "あいち産業DX推進コンソーシアム" and "DX Days".
- 導入・活用・セキュリティ対策支援**: A section for support with implementation, utilization, and security measures, listing "デジタル技術導入モデル実証事業" and "DXチャレンジ促進事業".
- 人材育成支援**: A section for human resource development support, including "中小企業等の経営層向け研修".

The main content area features a blue banner with the text: "～2024年度 DXチャレンジ促進事業～ DXを目指す事業者に向けたワーキンググループ活動に 参画する企業を募集します". Below this, it states: "ページID:0536343 掲載日:2024年7月17日更新".

The main text explains the project's goal: "企業が持つ競争力を高める成長を促すには、デジタル技術を活用し、組織の変革や新たなビジネスモデルの創出を実現するDXの促進が極めて重要です。" (To promote growth by enhancing a company's competitive advantage, it is crucial to promote DX by utilizing digital technology, transforming organizations, and creating new business models.)

It further details the project: "2021年に愛知県が県内企業を対象に実施した調査では、デジタル化に取り組んでいる企業が80パーセントである一方で、DXIに向けて取り組んでいる企業はわずか2パーセントであることが分かりました。" (In a survey conducted by Aichi Prefecture in 2021 targeting companies in the prefecture, while 80% of companies were engaged in digitalization, only 2% were engaged in DXI.)

The project aims to support companies by: "そこで愛知県では、デジタル化に取り組んでいるもののDXIに向けた取組に着手できていない企業を支援するために、DXIに必要な不可欠な「AI・データ活用」を活動テーマに設定し、ワーキンググループ活動を実施する「DXチャレンジ促進事業」を引き続き実施します。" (Therefore, in Aichi Prefecture, to support companies that are engaged in digitalization but have not yet started initiatives for DXI, we have set "AI・Data Utilization" as an activity theme, which is essential for DXI, and will continue to implement the "DX Challenge Promotion Project" through working group activities.)

It also states: "つきましては、当事業のワーキンググループ活動に参画する企業を募集しますので、DXIに挑戦しビジネスの革新を目指す企業は、是非、御応募ください。" (Accordingly, as we are recruiting companies to participate in the working group activities of this project, companies that are challenging DXI and aiming for business innovation are encouraged to apply.)

Finally, it notes: "なお、当事業のワーキンググループ活動における活動内容と成果は、より多くの企業が参考に行けるよう、今後、県公式Webサイトやセミナー等で発信していきます。" (Furthermore, the activities and results of the working group activities of this project will be disseminated through the prefectural official website and seminars in the future to be more useful to a larger number of companies.)

A PDF link is provided: "【チラシ】2024年度 DXチャレンジ促進事業【PDFファイル/567KB】"

The screenshot shows the details page for the "2024年度 DXチャレンジ促進事業". The page is organized into several sections:

- 公募情報**: Information about the public recruitment, including "中小企業デジタル人材育成研修事業の実施委託事業" and "DXチャレンジ促進事業の実施委託事業".
- 1 事業内容**: Description of the project, including "日本アイ・ビー・エム株式会社(県事業委託先)の支援を受け、[3 活動テーマ]に記載のテーマについて、1か月当たり1回程度(計6回)の、専門家を含めたワーキンググループを実施します。" (With the support of IBM Japan Co., Ltd. (county project commissioning company), we will implement a working group including experts once a month (total 6 times) for the theme listed in [3 Activity Themes].)
- 2 事業期間**: The project period is from August 2024 to February 2025.
- 3 活動テーマ**: Three activity themes are listed: "テーマ(1) AI・データ活用 × 業務プロセス(製造業向け)" and "テーマ(2) AI・データ活用 × 新規事業創出".
- 4 対象者**: The target audience is companies that wish to participate in working group activities for the activity themes listed in [3].
- 対象者イメージ**: Target audience image, including "テーマ(1)" (Production process improvement, increasing productivity) and "テーマ(2)" (New business creation, but no ideas).

The page also includes a section for "外部リンク" (External Links) with a link to "あいち新IT推進ラボ" and a "その他" (Others) section with a link to "AI(人工知能)はこんなページをおすすめします".

There are also links for "「DX Days 2025」の参加者を募集します" and "「業務改革のためのDX支援セミナー～生成AIの活用・リスクについて～」の参加者を募集します(オンライン開催)".

At the bottom, there is a link for "先端デジタル技術の実証実験「TECH MFETS」の成果発表会について".

At the very bottom, there is a link for "「あいち次世代バッテリー産業コンソーシアム 第1回セミナー」の参加者を募集します".

At the bottom right, there is a link for "「AI CHI INNOVATION CHALLENGE」を開催する(愛知県)".

## 2-②.参加企業の募集

説明会の申し込み状況は以下の通り。うち5名が個別相談に参加。

参加方法	人数	個別相談
オンライン	15名	3名
現地	8名	2名
合計	23名	5名

## 2-③. ワーキンググループ活動

説明会などを経て、以下の企業より申し込みを受けた。WG1：5社、WG2：7社で本事業のWGを開始した。

	WG1	WG2
1	豊田合成株式会社	株式会社 コーイー・テック
2	株式会社高瀬金型	株式会社JOYCLE
3	株式会社旭工業所	老津木工有限会社
4	旭金属株式会社	(一財) 中部電気保安協会
5	三和興産株式会社	株式会社 幸建
6		株式会社 鈴木化学工業所
7		三信建材工業株式会社

## 2-③. ワーキンググループ活動

なお、株式会社幸建については、第1回ワーキンググループ終了後に辞退。株式会社JOYCLEについては、第2回ワーキンググループまでの参加となった。なお、他の参加者はすべてのワーキンググループに参加したため、以降の表記は割愛する。

	WG1	WG2
1	豊田合成株式会社	株式会社 コーイー・テック
2	株式会社高瀬金型	株式会社JOYCLE
3	株式会社旭工業所	老津木工有限会社
4	旭金属株式会社	(一財) 中部電気保安協会
5	三和興産株式会社	株式会社 幸建
6		株式会社 鈴木化学工業所
7		三信建材工業株式会社

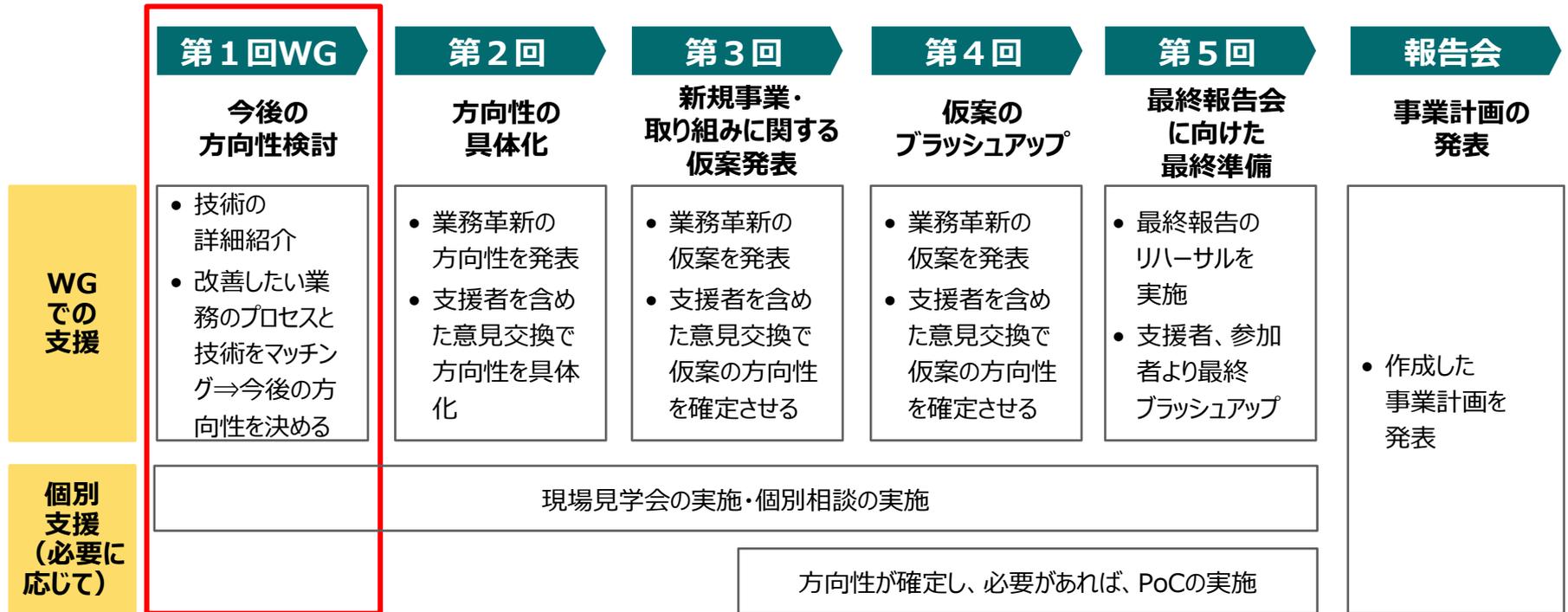
## 2-③. ワーキンググループ活動

次ページよりWG 1 の各回のWGについて実施事項などを記載する。参加企業は以下のとおり。

	WG1	WG2
1	豊田合成株式会社	株式会社 コーイー・テック
2	株式会社高瀬金型	株式会社JOYCLE
3	株式会社旭工業所	老津木工有限会社
4	旭金属株式会社	(一財) 中部電気保安協会
5	三和興産株式会社	株式会社 幸建
6		株式会社 鈴木化学工業所
7		三信建材工業株式会社

## 2-③. ワーキンググループ活動

第1回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



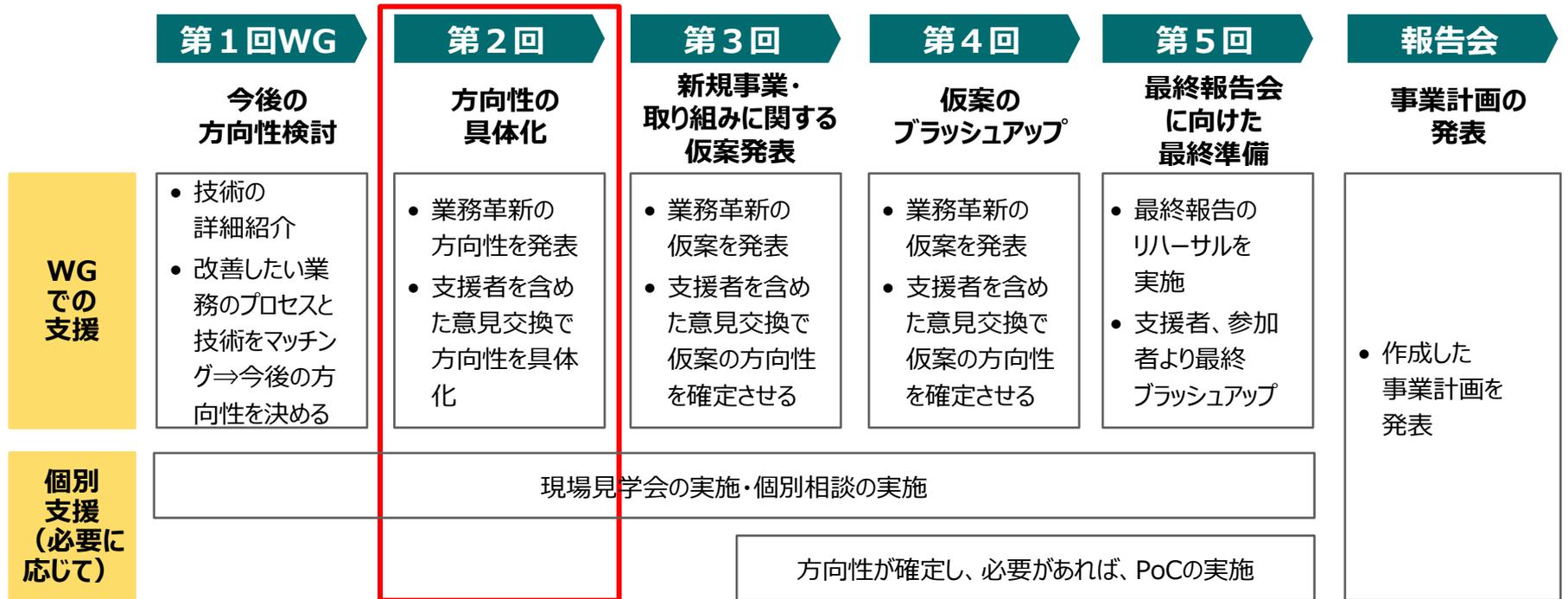
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
10 : 00-10 : 05	愛知県挨拶
10 : 05-10 : 15	参加者自己紹介
10 : 20-10 : 35	本WGの進め方説明
10 : 35-11 : 35	参加企業様より発表（3分/1社）＋質疑応答 発表事項：自社の概要＋改善したい業務のプロセス概要や成し遂げたいこと（何が課題か、どう改善したいか、どのようなメリットを出すかなど）の発表＋質疑応答
11 : 35-11 : 40	休憩
11 : 40-12 : 10	AI、データ活用に関する紹介・デモ
12 : 10-12 : 55	GW：今後の取組の方向性の核を決める （イメージ） どの課題に対して、どのような技術を用いて、どのように解決をして、どのような効果を生むか、を参加者及び専門家でGW形式で検討
12 : 55-13 : 00	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第2回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



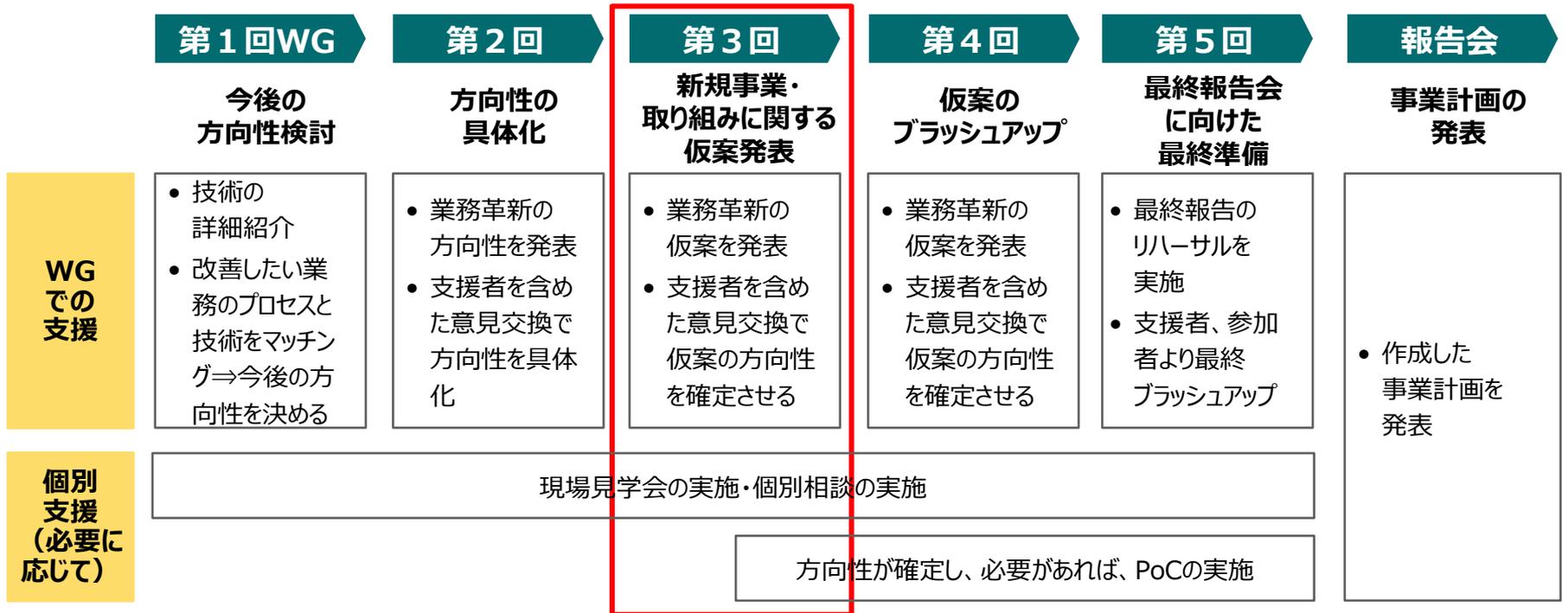
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
10 : 00-10 : 05	本WGの進め方説明
10 : 05-12 : 05	GW : 方向性の具体化 現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査。→より詳細・具体的にしていくイメージ。
12 : 05-12 : 20	休憩
12 : 20-12 : 50	発表・質疑応答 グループを一部シャッフルして実施
12 : 50-12 : 55	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第3回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



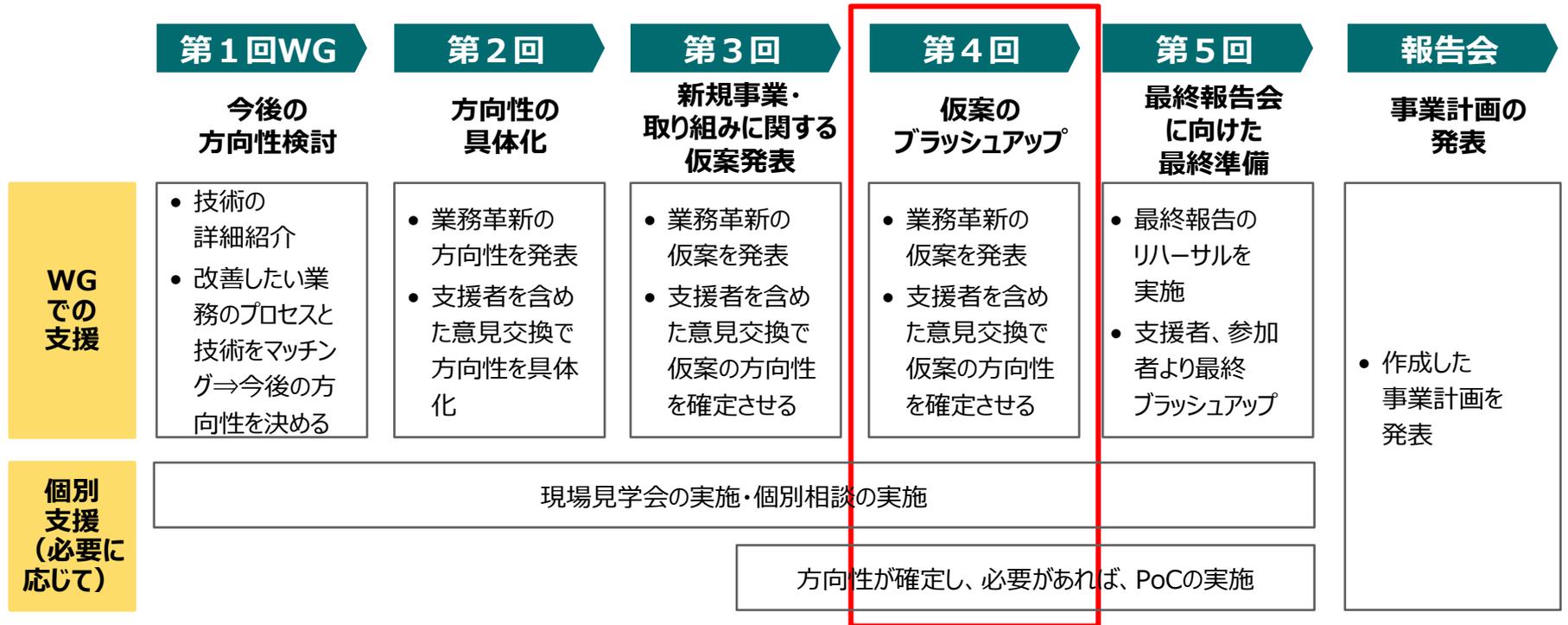
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
10 : 00-10 : 05	本WGの進め方説明
10 : 05-11 : 45	各企業発表+ 質疑応答・コメント 1社 20分 : 発表10分+ 質疑応答10分 ×5社
11 : 45-11 : 55	休憩
11 : 55-12 : 55	Gに分かれ個別相談 1社 20分or30分程度で、発表時に出たコメントなどについて検討
12 : 55-13 : 00	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第4回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



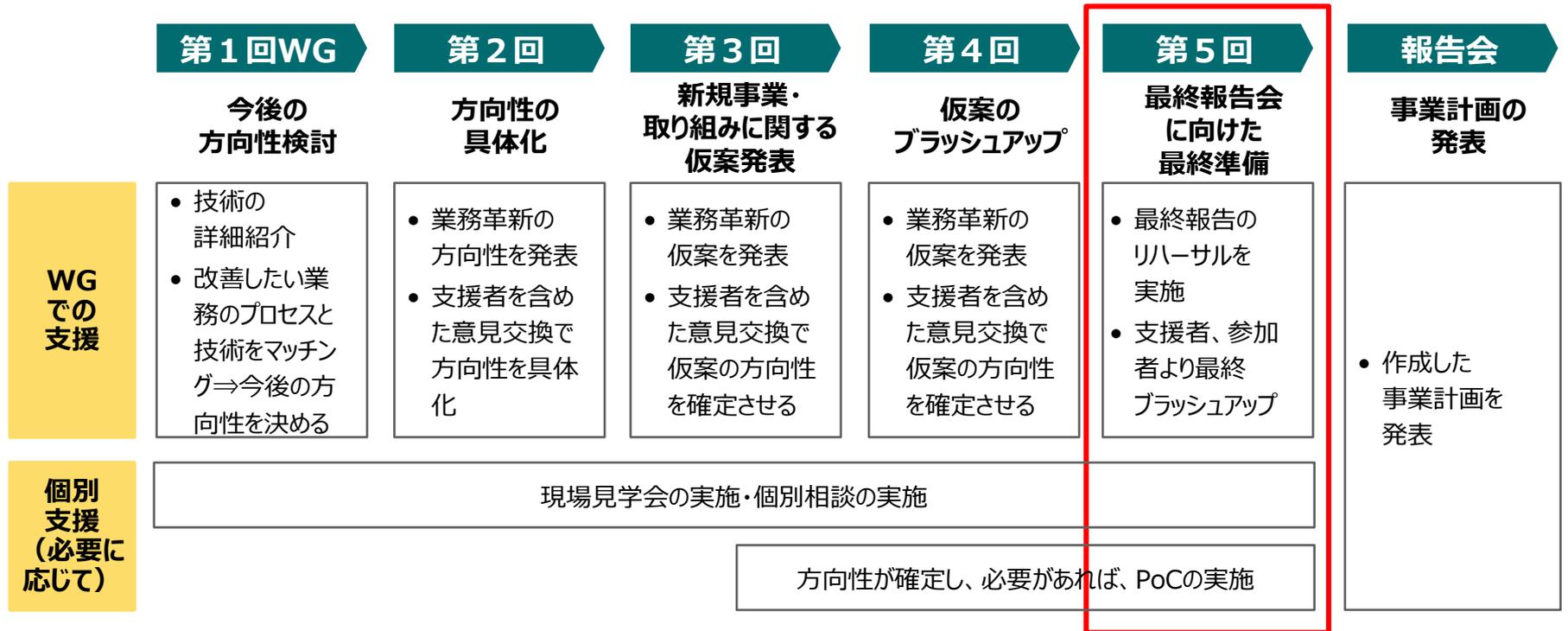
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
10 : 00-10 : 05	本WGの進め方説明
10 : 05-12 : 05	GW : 方向性の具体化 現状の案を技術、メリット、コスト等の面から精査。→より詳細・具体的にしていくイメージ。
12 : 05-12 : 15	休憩
12 : 15-12 : 50	発表・質疑応答 グループを一部シャッフルして実施
12 : 50-12 : 55	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第5回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
10 : 00-10 : 05	本WGの進め方説明
10 : 05-12 : 05	各企業発表 + 質疑応答・コメント 1社 24分 : 発表12分 + 質疑応答12分 × 5社
12 : 05-12 : 15	休憩
12 : 15-12 : 55	Gに分かれ個別相談
12 : 55-13 : 00	本日の振り返り

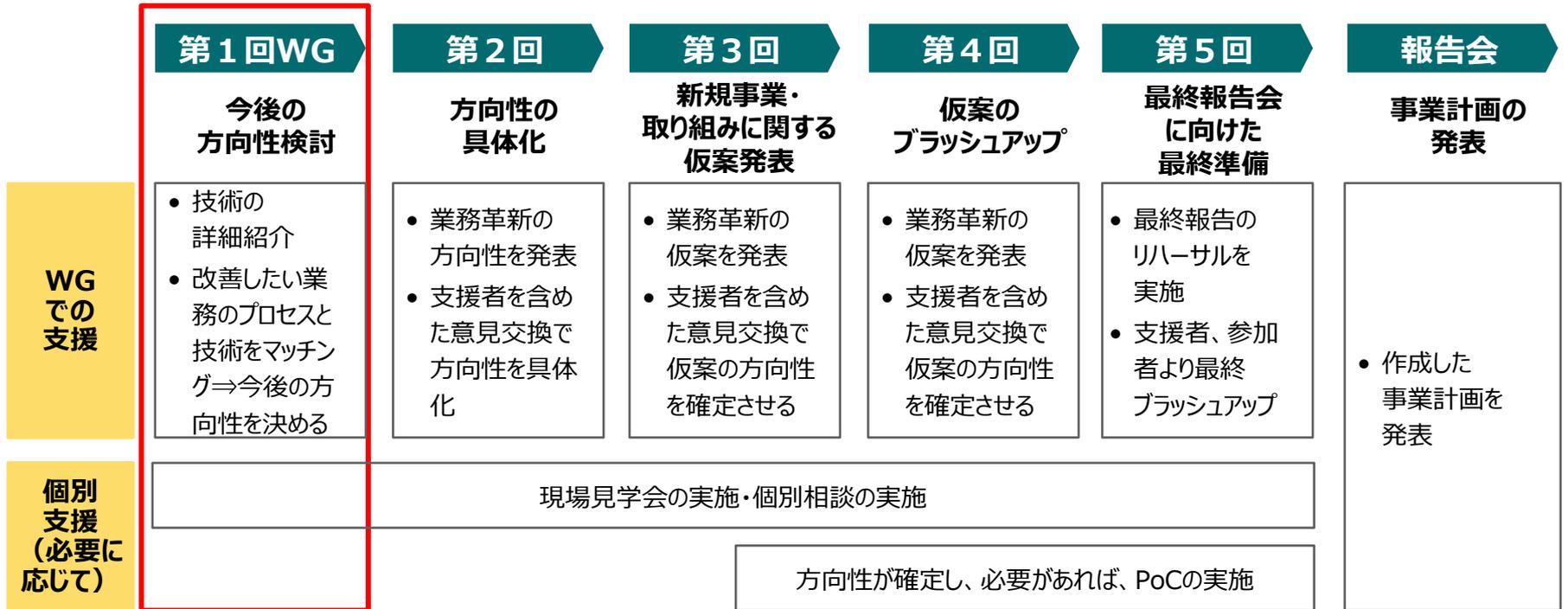
## 2-③. ワーキンググループ活動

次ページよりWG2の各回のWGについて実施事項などを記載する。参加企業は以下のとおり。株式会社 幸建は初回のみ、株式会社JOYCLEは2回目までの参加であった。

	WG1	WG2
1	豊田合成株式会社	株式会社 コーイー・テック
2	株式会社高瀬金型	株式会社JOYCLE
3	株式会社旭工業所	老津木工有限会社
4	旭金属株式会社	(一財) 中部電気保安協会
5	三和興産株式会社	株式会社 幸建
6		株式会社 鈴木化学工業所
7		三信建材工業株式会社

## 2-③. ワーキンググループ活動

第1回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



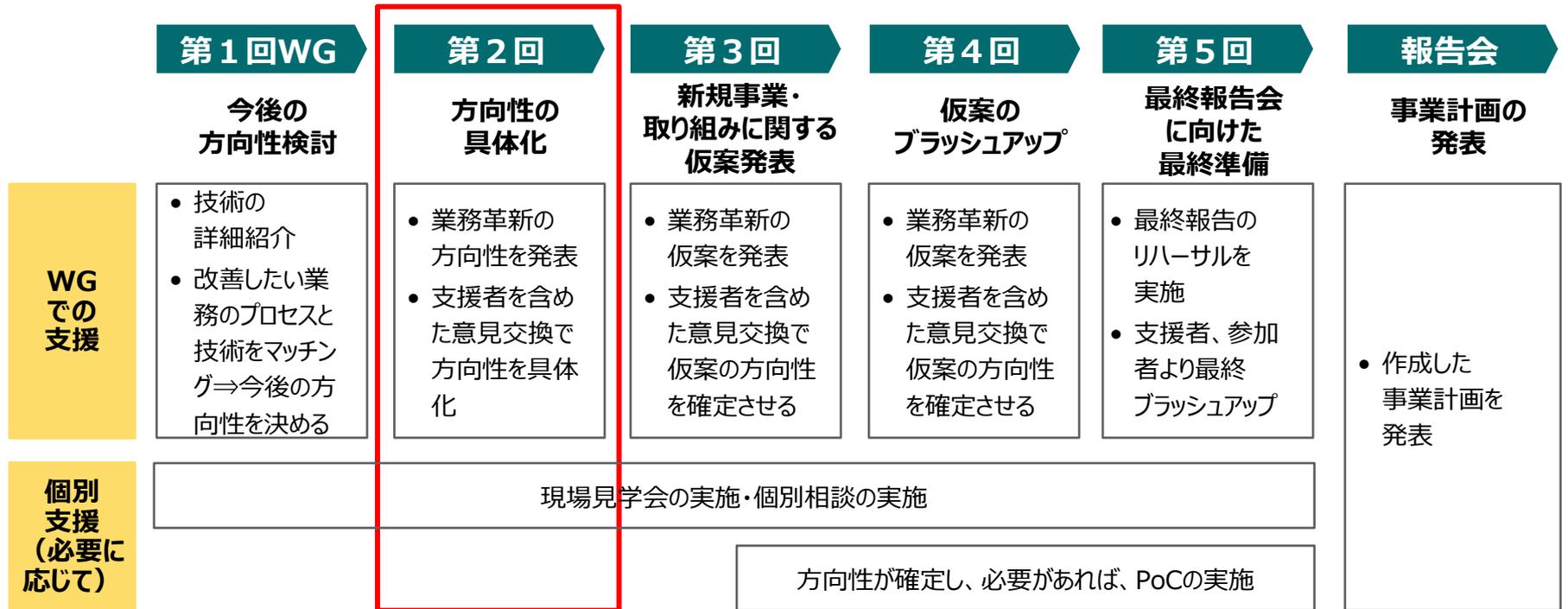
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
14 : 00-14 : 05	愛知県挨拶
14 : 05-14 : 20	参加者自己紹介
14 : 20-14 : 30	本WGの進め方説明
14 : 30-15 : 15	参加企業様より発表（5分） + 質疑応答 発表事項：自社の概要 + 強味（+ 決まっていれば本事業で実施したいこと）の発表 + 質疑応答
15 : 15-15 : 35	AI、データ活用に関する紹介・デモ
15 : 35-15 : 40	休憩
15 : 40-16 : 40	GW：今後の取組の方向性の核を決める （イメージ） 自社の強味×先端技術 による新規事業案を参加者及び専門家でGW形式で検討。この回で10以上の新規事業案を出すことを目標とする
16 : 40-16:50	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第2回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



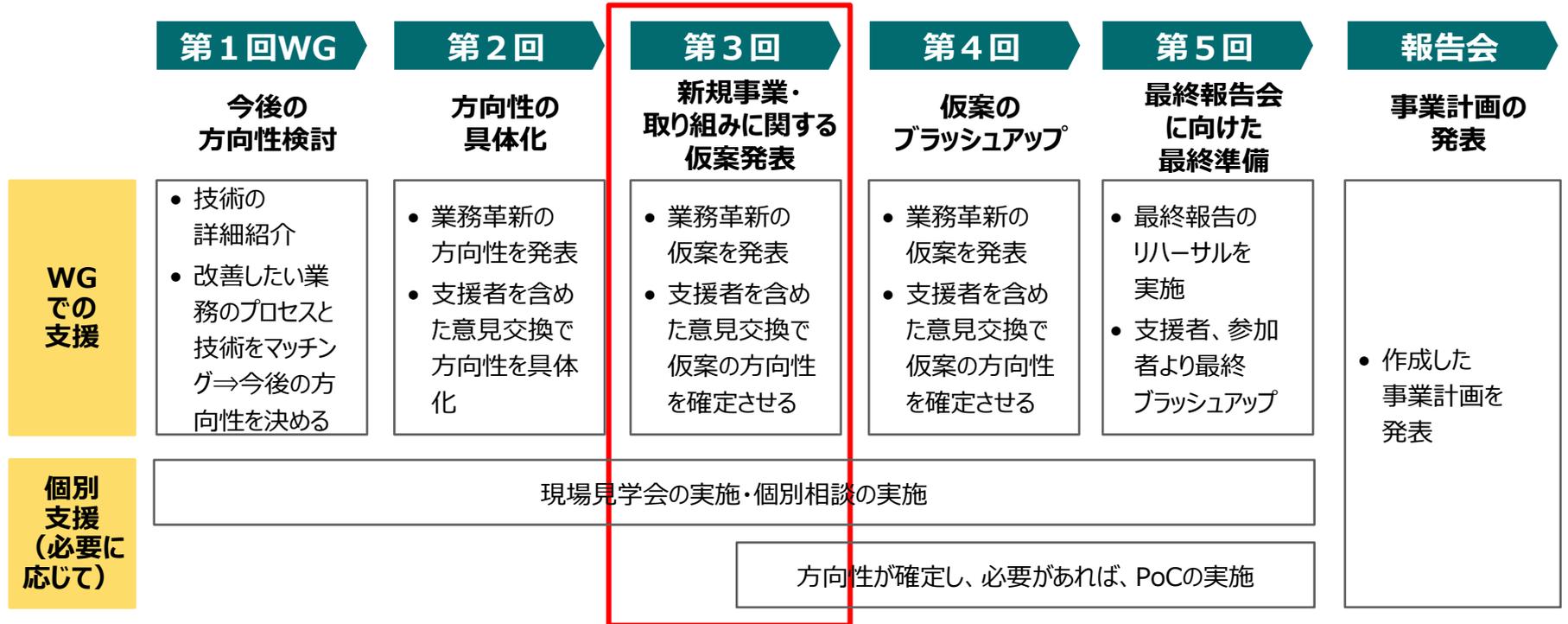
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
14 : 00-14 : 05	本WGの進め方説明
14 : 05-16 : 05	GW : 方向性の具体化 現状の案を技術面、メリット等の面から精査。→より細かく詳細にしていくイメージ。技術的に難しいもの、メリットが少なさそうな案は除外していく。
16 : 05-16 : 15	休憩
15 : 15-16 : 50	発表・質疑応答 グループを一部シャッフルして実施
16 : 50-17:00	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第3回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



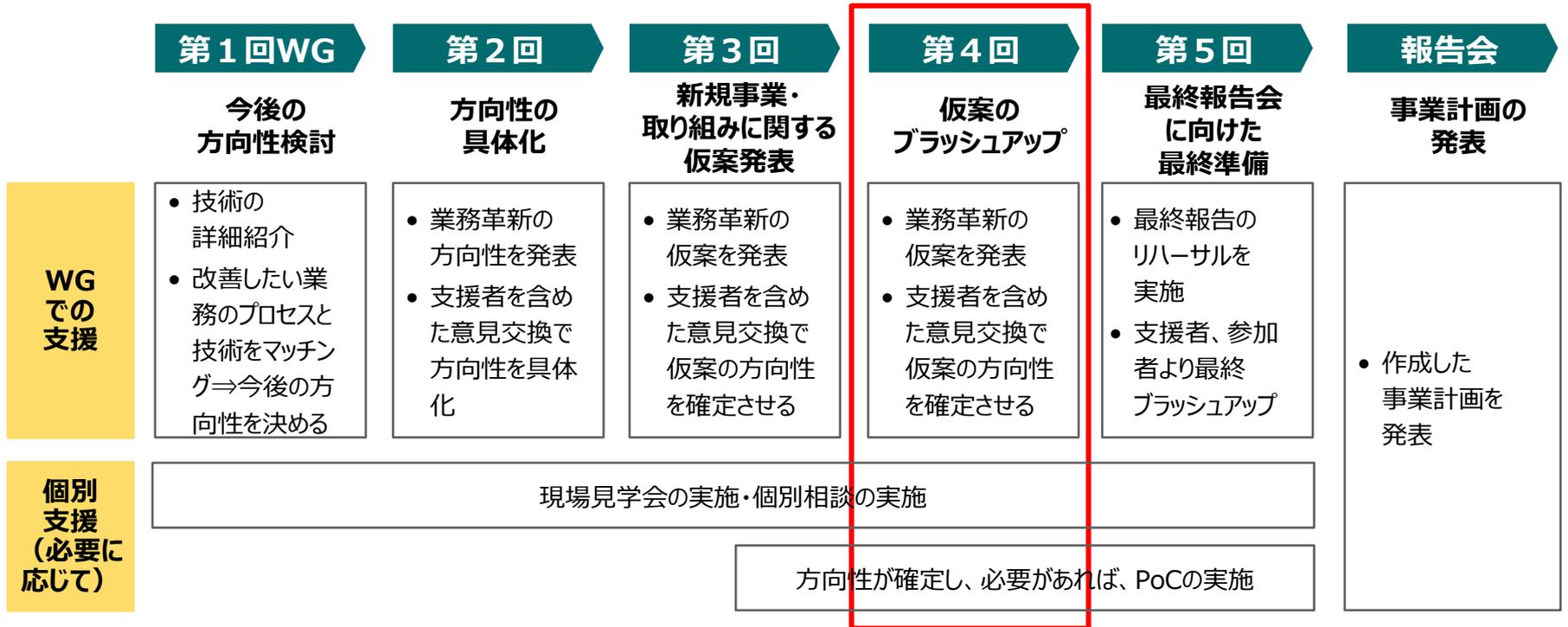
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
14 : 00-14 : 05	本WGの進め方説明
14 : 05-16 : 05	各企業発表 + 質疑応答・コメント 1社 20分 : 発表10分 + 質疑応答10分 ×5社
15 : 50-16 : 55	Gに分かれ個別相談 1社 17分程度で、発表時に出たコメントなどについて検討
16 : 55-17 : 00	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第4回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



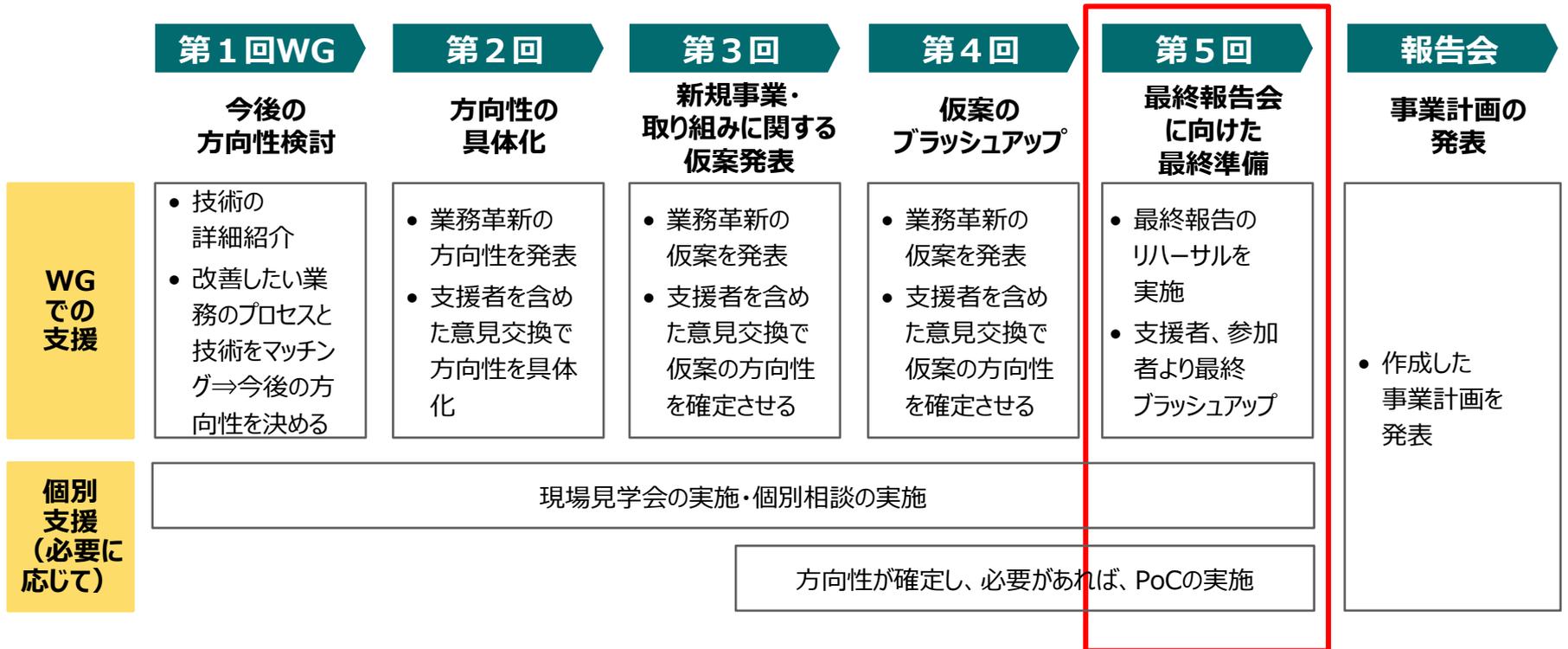
## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
14 : 00-14 : 05	本WGの進め方説明
14 : 05-16 : 05	GW : 方向性の具体化 現状の案を技術面、メリット等の面から精査。→より細かく詳細にしていくイメージ。技術的に難しいもの、メリットが少なさそうな案は除外していく。
16 : 05-16 : 15	休憩
15 : 15-16 : 50	発表・質疑応答 グループを一部シャッフルして実施
16 : 50-17 : 00	本日の振り返り

## 2-③. ワーキンググループ活動

第5回ワーキンググループの実施範囲は以下の通り。



## 2-③. ワーキンググループ活動

当日の次第は以下の通り。

時刻	実施事項
14 : 00-14 : 05	本WGの進め方説明
14 : 05-16 : 05	各企業発表 + 質疑応答・コメント 1社 24分 : 発表12分 + 質疑応答12分 × 5社
16 : 05-16 : 15	休憩
16 : 20-16 : 55	Gに分かれ個別相談
16 : 55-17 : 00	本日の振り返り

## 2-3.成果報告セミナーの開催

本事業の成果を発表し、愛知県内企業に横展開することを目的に、以下の通り、成果報告会を実施した。なお、デジタル人材育成研修事業と同時開催とした。

### チラシ

**参加費 無料**

# 経営向上に向けたDXへのチャレンジ 成果報告会

2025.2/27(木)

開場/14:00～  
開演/14:30～ 終演/16:30(予定)

愛知県産業労働センター  
(ウイングあいち)14階セミナールーム  
(名古屋市中村区名駅4-4-38)

事前申込制  
定員：先着40名(会場)  
先着100名(オンライン)

新規事業を創出したいが、アイデアが出ない。

生産工程を改善して、生産性を上げたい。

## DX Days DAY 3

**デジタル人材育成研修事業** 中小企業の経営層等を対象に、DX戦略の策定を目的とした自社の現状分析、経営課題の抽出、DX事例及びツールの紹介等を行う研修

- ・本事業の概要説明
- ・研修概要の説明(唐澤経営コンサルティング事務所 唐澤 智哉 氏)
- ・参加企業による成果発表
  - ①株式会社オーテック 経営企画課長 小川 広佑 氏
  - ②株式会社橋本製作所 代表取締役社長 橋本 篤一郎 氏

**DXチャレンジ促進事業** 異業種が参加するワーキンググループを通じ自社のDXに活用できる新たなひらめきを得る事業

- ・本事業の概要説明
- ・参加企業による成果発表
  - ①旭金属株式会社：「データ活用による利益率向上と生産性向上」
  - ②株式会社コーエー・テック：「AIを活用した新たなビジネスの創出」
- ・参加企業×日本アイ・ピー・エム株式会社によるパネルディスカッション

**来年度の愛知県のデジタル化・DX支援施策のご紹介**

※ 終了後、会場にて交流会を実施します。(1時間程度・参加自由)

愛知県 DX 愛知県産業労働センター DX推進コンソーシアム 愛知県産業振興機構 申込問合せ：あいち産業振興機構 情報企画グループ  
Tel:052-715-3063

## 2-3.成果報告セミナーの開催

申し込み状況は以下の通り。

### 申込人数

方法	人数
現地参加	28
オンライン参加	53
<b>合計</b>	<b>81名</b>



### 参加人数

方法	人数
現地参加	23
オンライン参加	46
<b>合計</b>	<b>69名</b>

## 2-3.成果報告セミナーの開催

当日の次第は以下の通り。

### 次第

**1 愛知県 DXチャレンジ促進事業 事業説明**

**2 参加企業による取組紹介**

①旭金属(株) : 「データ活用による利益率向上と生産性向上」

②(株)コーイー・テック : 「AIを活用した新たなビジネスの創出」

**3 愛知県デジタル化・DX支援施策の紹介**

## 3.総括

### ① 今年度の成果

## 3-1. 今年度の成果

今年度の成果は以下の通り。概ね想定通りの成果を出した。

- 今年度は12社申込があり、うち10社が最終回まで参加。
- 全社がデジタルを活用した事業計画書を作成。作成した事業計画は次ページに掲載
- その事業計画書は、専門家の視点から、実現性、収益性がある程度確認されたものであるため、参加各社の今後のデジタル活用が見込まれている
- そのため、事業全体としては、想定した成果を出すことができた。

## 3-1. 今年度の成果

WG1に参加した企業が作成した事業計画一覧は以下の通り。

社名	取組名
旭金属株式会社	データ活用による利益率向上と生産性向上
株式会社旭工業所	生産工程のDX化による工数削減プロジェクト
三和興産株式会社	システム導入による品質の向上・人材育成課題の解決
株式会社高瀬金型	生産計画自動化プロジェクト
豊田合成株式会社	システム導入による顧客満足度・信頼性・生産性向上

## 3-1. 今年度の成果

WG2に参加した企業が作成した事業計画一覧は以下の通り。

社名	取組名
老津木工有限会社	DXを活用したオーダー椅子の製作
株式会社コーイー・テック	目視検査に代わる、デジタル検査装置の開発
三信建材工業株式会社	AIを活用した営業・施工管理DX
株式会社鈴木化学工業所	AIを用いた製品現物解析の効率化
(一財) 中部電気保安協会	消費電力の可視化によるエネルギー効率の最適化提案

